

# 住んでよし 働いてよし 訪れてよし

明けましておめでとーうございませう



成田市長  
小泉一成

に係る多くの事業が大成するよう  
取り組んでいきます。

## 観光立市なりたの実現

成田山新勝寺は、本年、開基  
1080年の記念すべき年に当た  
ります。このことを記念して、本  
市においてもさまざまな行事を実  
施し観光振興を図ります。また、  
本市特有の観光資源を活用した祭  
礼・イベントなどを引き続き開催  
することで、観光客誘致の強化に  
取り組んでいきます。

昨年7月28日に、成田空港開港  
以来の航空旅客数が10億人を達成  
しました。また、平成29年の上期  
の航空旅客数が1,981万8、  
000人と平成26年から4期連続  
で最高値を更新しています。

これらの追い風を千載一遇の  
チャンスと捉え、本年開催される  
世界女子ソフトボール選手権大会  
2019年のラクビーワールド  
カップ日本大会、そして2020

年の東京オリンピック・パラリン  
ピックに向けた事前キャンプの積  
極的な誘致などスポーツツーリス  
ムの推進を図っていきます。

昨年2月に圏央道の茨城県内区  
間が全線開通しました。このこと  
により、本市と北関東方面とのア  
クセスが大幅に向上し、本市へ観  
光などに訪れる方や成田空港を利  
用する方の利便性が高まりました。

また、本年1月から圏央道千葉  
県内未開通区間の大栄―横芝間の  
一部でいよいよ工事が着工される  
運びとなりました。圏央道の全線  
が整備されることで、より一層本  
市への交通アクセスが向上し、物  
流の効率化が図られるとともに、  
観光の活性化や企業進出・雇用創  
出の促進が期待されます。

## 成田空港を核とした まちづくり

現在、政府は、訪日外国人旅行  
者数を2020年に4,000万  
人、2030年には6,000万  
人とする目標を掲げるなど、観光  
を国の基幹産業と位置付けた成長

平成29年4月に開学した国際医療福祉大学医学部

市民の皆様には、平成30年の新  
春を健やかにお迎えのこととお  
慶び申し上げます。

今年の干支は戌戌です。十干  
の戌は、植物の成長が絶頂期にあ  
ることを意味します。また、十二  
支の戌(犬)は多産でお産が軽いと  
されていることから、安産祈願は  
「戌の日」が吉日とされています。  
そして、新たに何かを産むという  
意味もあり、何かを生み出す年と  
しても良いとされています。

本年は、市長に就任してから、  
3期目の総仕上げです。千葉県の  
中核を担う都市として大きく成長  
した本市が、さらに発展していく  
ため、戌戌にあやかり、市政運営

戦略を打ち出しています。昨年は過去最多であった平成28年の2、404万人を11月4日時点で突破し、増加の一途をたどっています。増大する首都圏航空需要に対応するためには打ち出された、第3滑走路の整備をはじめとする成田空港のさらなる機能強化策は、日本の空の玄関である同空港の利便性が向上し、国際競争力の強化につながるだけではありません。人や物の流れがさらに活発になることで、地域経済の発展にも寄与し、本市や空港周辺地域にさらなる成長をもたらすと考えています。

その一方で、機能強化に伴う発着回数の増加や騒音地域の拡大、夜間飛行制限の緩和、航空機からの落下物などにより、騒音地域にお住まいの皆様への生活環境への影響も懸念されます。

市としても、空港の機能強



上空から見た成田空港

化と、機能強化に伴う環境対策・地域振興策は一体的に取り組みなければならぬと考えており、騒音地域にお住まいの皆様の見解を伺いながら進めていきたいと考えています。

## 日本の「食」の発信の場を目指して

日本食は、「和食」日本人の伝統的な食文化」としてユネスコ無形文化遺産に認定されるなど、世界で高い評価を受けています。

政府は、2019年に農林水産物・食品の年間輸出額の1兆円達成に向け、「農林水産物の輸出強化戦略」の実践に必要な施設などのハード面と制度・手続きなどのソフト面の整備を総合的かつ計画的に進めるとしています。

このような背景もあり、本市では、成田空港・東関東・圏央道などの充実した交通ネットワークの利点を最大限活用し、本市のみならず、空港周辺地域・千葉県・東日本地域、さらには全国各地から集荷した農水産物の効率的な輸送を可能とする輸出拠点機能を有する新生成田市場の再整備を進めています。現在、空港隣接地での2020年の開場に向けてスピード感を持って取り組んでいます。

新生成田市場は、市民の皆様へ安全・安心な生鮮食品などを安定的に供給することはもとより、日本の農水産物のおいしさと食文化を、輸出を通じて「なりた」から「世界」へ発信することで日本の農水産物の発展に貢献できるものと考えています。また、空港を利用する国内外のお客様が気軽に立ち寄って日本の「食」を楽しめるような施設も備えていきます。

## 医療・福祉の充実したまちづくり

昨年4月の国際医療福祉大学医学部の開学を受け、2020年の開院を目指して国際医療福祉大学成田病院の建設工事が昨年9月から畑ヶ田地先で進められています。642の病床と39の診療科を備えた付属病院が開院されることにより、高度な医療を身近で受けることができるようになります。また、救急医療体制が拡充するなど、本市の医療環境は格段に向上することとなり、超高齢社会に対応した安心・安全なまちづくりが実現できるものと確信しています。

日本の高齢化は急速に進んでおり、2025年には、団塊の世代の約800万人が後期高齢者となり、超高齢社会がさらに加速しま

す。現在でも県内では4人に1人が高齢者という状況です。

一方、本市の高齢化率は全国的に見ても比較的低い数値ですが、今後、高齢者の増加が予測されています。このようなことから、高齢者の皆様が住み慣れた地域で、生き生きと安心して生活を継続できるように、日常生活圏の再編成を行い、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターを増設し、機能強化を図っていきます。

## 子育て世代に魅力あるまちづくり

本市が安定的に発展していくための基盤として「若者や子育て世代に魅力のあるまちづくり」を重点目標の一つに掲げ、各種事業を推進しています。その中で、多くの要望が寄せられていました市街地での病児・病後児保育施設については、昨年4月に成田病院内に開設し、さらに、ニュータウン地区内においても本年4月の開設を予定しています。

待機児童解消への取り組みについては、昨年7月1日、国の基準による待機児童「ゼロ」を達成しました。しかしながら、国の基準には当てはまらないものの、保育園などに入所を希望していても入

所できない児童もいます。

今後さらさら受け入れ枠の拡大を図るとともに、昨年度創設した保育士処遇改善事業、通称「なりた手当」により処遇改善を図り、働きやすい環境を整えていきます。子どもを産み育てたいと思う市民の皆様の希望がかなうよう、子育て世代に寄り添った施策を引き続き実施してまいります。

昨年、ゆるキャラグランプリでうなりくんが念願であったグランプリを獲得し、ゆるキャラの頂点に立つことができました。このことは、市民の皆様の熱い応援により成し得たものと思っており、応援していただきました皆様に改めて深く感謝申し上げます。知名度が向上したうなりくんは、これからも成田市特別観光大使として本市の魅力を大いにPR・発信していきますので、さらなる応援をよろしくお願いいたします。

結びに、本年も未来を見据えた「次世代に誇れるまちづくり」を進め、より一層市民の皆様に「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」を実感していただけるよう、取り組んでいきます。

本年も市民の皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。